

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は高値圏での振幅が継続か

[11月13日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	11月6日～11月10日			
	始値	高値	安値	終値 前週比
ドル・円	149.29	151.41(10)	149.25(6)	151.37 +1.98
ユーロ・ドル	1.0731	1.0756(6)	1.0659(8)	1.0668 -0.0063
=====				
国内株・金利/米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	32,568.11	+618.22	日本10年債利回り	0.852 -0.074
ダウ平均株価	33,891.94	-169.38	米10年債利回り	4.624 +0.052
=====				

<来週の主要経済統計等>

- 13日 独9月経常収支
- 14日 英10月雇用統計
スイス10月生産者・輸入価格
独11月ZEW景況感指数
ユーロ圏第3四半期GDP改定値
米10月消費者物価指数
- 15日 日本第3四半期GDP1次速報
中国10月鉱工業生産指数、中国10月小売売上高
日本9月鉱工業生産指数確報値
英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、英10月小売物価指数
ユーロ圏9月鉱工業生産指数、ユーロ圏9月貿易収支
カナダ9月卸売上高、カナダ9月製造業出荷
米10月小売売上高、米10月生産者物価指数
米11月NY連銀製造業景気指数
APEC (アジア太平洋経済協力会議) 首脳会議 (17日まで)
- 16日 日本10月貿易収支、日本9月機械受注
豪10月雇用統計
米10月輸入価格指数、米新規失業保険申請件数
米11月フィラデルフィア連銀景況感指数
米10月鉱工業生産・設備稼働率
米9月対米証券投資
- 17日 NZ第3四半期生産者物価指数
英10月小売売上高
ユーロ圏9月経常収支、ユーロ圏10月消費者物価指数確報値
米10月住宅着工・許可件数
カナダ10月鉱工業製品価格

【前回のレビュー】米国ではFRBによる利上げ打ち止めの可能性が高まりつつあるものの、金利水準は高止まりが続くとみられる。一方で日銀はYCCを再柔軟化したものの、それほど思い切った変更とはなっておらず、緩和姿勢は維持されている。政府・日銀による介入警戒感は根強いものの、ドル円は高値圏で底堅い推移が続くとした。

【ドル円は一時150円割れも戻す】

3日発表の10月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数が市場予想を下回り、失業率は市場予想を上回る弱い結果となった。これを受けて、米連邦準備制度理事会 (FRB) による利上げ停止観測が広がり、米10年債利回りは一時4.48%前後まで大き

く低下した。ドル売りの動きとなって、ドル円は149.20台まで下落した。

ドルは追加利上げ観測が後退して上値重く推移していたものの、日銀は緩和策の継続姿勢を示しており、円売りの動きが主導してドル円は151円台を一時回復してきた。9日にパウエルFRB議長が「十分な引き締めを行ったと確信していない」「必要なら追加利上げをためらわない」などと発言したことで、米長期金利が上昇してドル買いとなり、151円台にしっかりと乗せてきた。

CME FEDウォッチによると、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、政策金利据え置きとの見方が85%前後で、0.25%利上げが15%前後となっている。来年1月のFOMCでも据え置きの確率が76%前後で、0.25%利上げが22%前後となっている。

今後の米経済指標などに左右されるものの、追加利上げは見送られるとの見方が根強い。ただ、当面は利下げに動く可能性は低く、高止まりした政策金利を据え置くこととなる。一方で、日銀はゼロ金利の解除やイールドカーブコントロール（YCC）の撤廃など将来的には政策修正の可能性はあるものの、現時点では緩和策の維持が見込まれている。

13日の週は、14日の米10月消費者物価指数などが注目される。米消費者物価指数の事前予想は、総合は前月比+0.1%、前年比が+3.3%で、それぞれ前回の+0.4%、+3.7%を下回る見通し。コア指数の予想は前月比+0.3%、前年比+4.1%となっており、いずれも前回と同水準の見通しとなっている。

事前予想を上回るようだと、追加利上げ観測が再び台頭する可能性が出てくるものの、予想外に大きく上振れしない限りは、米長期金利を大きく押し上げるような動きにはなりにくいと想定される。一方で、予想を下回るようだと利上げ打ち止め観測が広がり、米長期金利の低下により、ドルの上値を抑えることとなる。ただ、政策金利の高止まり継続との見方から、大幅なドル売りとはなりにくいとみられる。

こうした中、ドルは底固く、円は売られやすい流れが続くとみられ、ドル円は高値圏での振幅が継続するとみられる。なお、ドル円は10月31日の高値151.72が目先のメドとみられるが、同水準が接近すると、政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感から上値を抑えられやすい展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、148.75～152.75円。

日米の経済指標やイベントとしては、14日に米10月消費者物価指数、15日に日本第3四半期GDP1次速報、日本9月鉱工業生産指数確報値、米10月小売売上高、米10月生産者物価指数、米11月NY連銀製造業景気指数、16日に日本10月貿易収支、日本9月機械受注、米10月輸入価格指数、米新規失業保険申請件数、米11月フィラデルフィア連銀景況指数、米10月鉱工業生産・設備稼働率、米9月対米証券投資、17日に米10月住宅着工・許可件数などがある。

【ユーロドルは上昇一服も堅調な動きか】

ユーロドルは3日の米雇用統計の弱さによるドル売りの動きから1.0700台を回復して、翌日には1.0750台まで一段と上昇した。ただ、その後は短期的な大幅高の反動やドルが買い戻されたことから、上昇一服となっている。9日にはパウエルFRB議長のタカ派発言で、一段とドル買いに傾いた。

ユーロドルは1.0500ドル割れの水準まで下落した後は、もみ合いながら緩やかに出直りを見せている。いったん上昇一服となっているものの、調整一巡後は再び上昇基調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0550～1.0900ドル。

ポンドドルもユーロドルと同様に3日の米雇用統計の弱さによるドル売りから1.23台後半まで上昇、翌日には1.2420台まで上値を伸ばした。その後は軟調な動きを見せている。高値からの調整が一服すると、再び堅調な動きを見せて上値を追う展開が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2100～1.2500ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、13日に独9月経常収支、14日に英10月雇用統計、スイス10月生産者輸入価格、独11月ZEW景況感指数、ユーロ圏第3四半期GDP改定値、15日に中国10月鉱工業生産指数、中国10月小売売上高、英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、ユーロ圏9月鉱工業生産指数、ユーロ圏9月貿易収支、16日に豪10月雇用統計、17日にNZ第3四半期生産者物価指数、英10月小売売上高、ユーロ圏9月経常収支、ユーロ圏10月消費者物価指数確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。